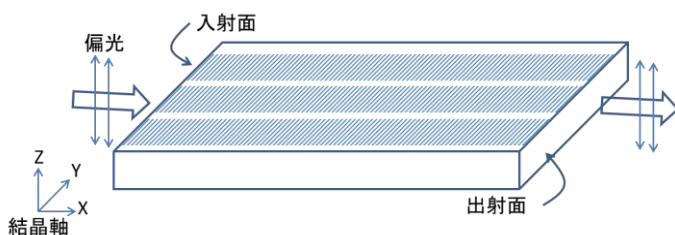


QPM 素子 取扱いガイド

QPM 素子は厚さが 0.5mm~3mm と薄く、ガラスのように繊細です。以下の点を参考に、注意してお取扱いください。

1. 静電対策された先端部がプラスチック製もしくはテフロン製のピンセットを使用してケースから取り出してください。金属製のピンセットは使用しないでください。
2. QPM 素子の入射端面の状態を確認してください。AR コートされた表面が汚れている場合、揮発性の高いメタノールをレンズクリーニングペーパーにつけ AR コート面を傷つけないよう慎重に拭き取って下さい。
3. 弊社から購入されました素子ホルダを使用される場合、QPM 素子を素子ホルダの上へそっと置いて下さい。また、QPM 素子の角をホルダにぶついたりしないよう注意してお取扱いください。
4. 通常、バルクの QPM 素子には表裏の区別はありません。
5. QPM 素子とホルダとの熱伝導をよくするためにインジウム箔を使用することも有効です。
6. 素子ホルダのカバーをそっとかぶせ軽くネジ止めして下さい。ネジ止めの際は、必要以上の力が入りすぎないようにするため、トルクレンチ等を用いることをお勧めいたします。強くネジ止めをすると温度調整時に QPM 素子を破損する恐れがありますので注意してください。
7. 5 軸マウントなどを利用して入力光が QPM 素子端面へ垂直に入射するよう調整して下さい。偏光方向は素子の厚み方向（結晶軸の Z 方向）に一致させます。



8. 設計された位相整合温度を目安に ± 10 °Cほど振りながら所望の変換強度が得られる温度を探して下さい。安定した出力を得るためには QPM 素子の温度を ± 0.1 °Cに保つ必要があります。(結晶長によって異なります。)
- ARコート膜は、水分の付着、特に結露により性能が損なわれる場合があります。
 - 保管については、結露しない状態で室温にて湿度の低い場所に保管してください。
(保存温度：室温、低湿度但し、結露無きこと)